

学校体験学習における不適応予防のための学生支援プログラムの開発

Student Support Program for Prevention of Maladjustment
during Experience-based Learning at School

プロジェクト代表者：尾崎啓子（教育学部附属教育実践総合センター・教授）

Keiko Ozaki (Professor, Faculty of Education, Saitama University)

I. 問題と目的

教育学部では平成18年度から新しいカリキュラムに移行して、平成19年度に「学校フィールドスタディA・B」が開講された。主に授業を担当する「教育実習」とは異なり、比較的長期にわたって継続的に学校現場に関わる科目であるため、学生にとっては軽度発達障害、不登校傾向、非行傾向など多様な個性や課題をもつ児童生徒とのふれあいや、担任以外の教師とも話すなど、様々な体験を得る機会が増大する。

多様な課題が山積する学校現場で新たに体験学習を行う学生に対して、送り出す側は学生がどんなことにどの程度の不安を感じるのかを把握し、どのような支援が有効かを模索して提供することが肝要であろう。そのためには教育実習からの知見を積み重ねることが必要と考え、平成17年度より、教育実習生が抱える諸問題に関して、特にメンタルヘルスの観点から学生支援体制を考える研究と取り組みを始めた。

平成18年度は前期と後期の実習時期に、進路指導委員会、教育実習委員会、附属学校園の協力を得て、以下の実態・意識調査並びに学生支援に資するセミナーを行ったので報告する。

II. 調査の概要と結果

1. 質問紙による実態・意識調査

対象：平成18年度に附属小・中学校で応用実習Ⅰ・Ⅱを履修した学生約400名。

方法：実習初日と最終日に新版STAI日本語版不安検査を実施した。

結果：応用実習Ⅰ・Ⅱ、男女ともに、実習初日の状態不安の程度が高く、最終日には低下していた。また応用実習Ⅰに比べⅡの方が初日の不安が低めだった。

2. 面接調査による実態・意識調査

対象：教育学部教員が協力を呼びかけて自主的に参加した学生21名。全員3年生。

時期：平成18年7月上旬から平成19年3月末まで。

方法：面接者（研究代表者）と面接対象者（学生）の1対1で約1時間ずつ、同じ質問項目を元に自由に話を聞いていく半構造化面接を行った。質問項目は「実習先と実習期間」「実習先の印象」「実習に先立つ学校参加体験の有無」「実習で印象に残ったこととその時期」「その時得られたサポート」「希望するサポートの内容とその時期」「こ

れから教育実習を履修する学生へのアドバイス」「教員採用試験受験意志の有無」「その他」である。

結果：面接対象者 21 名の内教職志望者は 19 名で、「小学校希望」13 名、「中学校希望」5 名、「それ以外を希望」1 名だった。「希望しない」は 2 名だった。実習以前の学校体験の有無は、有りが 14 名、無しが 7 名であった。実習体験をどのようにとらえるか（肯定的・否定的・充実感・辛さなど）に影響する要因として「児童生徒と接する時間・機会の頻度」「実習先の教師と接する時間・機会の頻度」「実習生同士で支え合えること」「実習を楽しもうとする前向きな姿勢と考え方」「生活リズムをつくる、整える」「気分転換、特に話せる相手の確保」の 6 点が認められた。

3. ストレス・マネジメント講座の開催

5 月に 1 回行った。ストレスの仕組みと数々の対処法について、具体的に講義した。学生の感想として「具体的な方法を幾つか学んだので、活用してみたい」「開催回数を増やし、授業にしてほしい」「実習前に聞けて安心できた」という声があった。

Ⅲ. 今後の課題

質問紙による学生の意識・実態調査は継続して行い、数的な傾向の変化の有無を確認するとともに、応用実習ⅠとⅡの履修者の不安内容の違いや男女差についてさらに細かい検討を加える。附属学校園だけでなく協力校で教育実習を行う学生や「学校フィールドスタディ A・B」履修者へ調査対象を拡大し、全体傾向を把握することが課題である。

また、面接調査の結果から、学校体験学習のとらえ方は個人差が大きく、その差は学生の属性よりも学校側の環境、実情、体験の内容に依存している可能性が高いということが理解された。今後も面接対象者を増やして調査を進め、学校で体験学習を行う学生一般向けのサポートとともに、個別性を重視したケア、サポートも考慮し、学生のニーズに合った対応を配慮・実施する姿勢が求められよう。

<成果の報告>

尾崎啓子：「教育実習における不安と希望する支援—新版 STAI・質問紙調査の結果から—」『埼玉大学紀要（教育学部）教育科学』、第 55 巻、第 2 号、pp141-150、2006

尾崎啓子：「ストレス・マネジメント教育の試み」『教育』12 月号、92-99、2006

尾崎啓子：「教育実習体験に関する基礎的研究—面接調査の結果から—」『埼玉大学紀要（教育学部）教育科学』、第 56 巻、第 1 号、pp119-129、2007

<付記>

本研究の遂行にあたり、質問紙調査ならびに面接調査にご協力いただきました埼玉大学教育学部 3 年生、4 年生の皆さん、また附属学校園の教職員の皆様に、心からの感謝を申し上げます。